

@幸せな贈り物



危機を機会に 変える知恵と ハリネズミの愛



リーダーならば必ず3大原則を守りなさい セウォル号事件以後、社会全般に「私の安全は私が守る」という心理が広がっていて、書店で3倍以上の販売量が増えた本があるということです。「生存指針書」関連書籍の販売量が増加して、インターネット掲示板には「事故の時に生き残る方法」に対する情報共有が増加しています。それだけ国民の衝撃と、安全に対する不安が大きいということでしょう。

2005年8月末にアメリカ国南部を強打したハリケーンのカトリーナの災いのとき、合同タスクフォース司令官で速かに災難を収拾したラッセル・アノレイ、当時の第1軍司令官は、セウォル号の惨事に対して、東亜日報とのインタビューでこういう助言をしていました。

「災いが近づけば指揮体系をたてなければならない。だれがコントロールタワーを引き受けるかということは関係がない。しかし、災いの状況に対する知識と情報が足りない組織や人物は、コントロールタワーになれない…現場司令官として構造活動を指揮するくらい重要だったことは、情報を国民に知らせるということだった。当時、私が直接一日に三回ずつ記者会見をした。公開する情報は100%真実でなければならない。言い逃れたり大げさにした情報は、結局、ばれるはずだ…現場責任者は、後ろから指揮権を行使するのではなく、前面に出るべきだ…マニュアルを守るのも重要だが、執着する必要はない。それより、状況に合うようにマニュアルをずっと補完することが重要だ。銃器乱射現場にいれば、以前には隠れることが原則だったが、この頃は安全地帯を探して走るのが原則だ…すべての災い、事故の最終責任者は大統領だ。カトリーナの事態を指揮しながら、力あるリーダーは『先に見て、先に理解して、先に行動しなければならない』という3大原則を守らなければならないことを学んだ。無能なリーダーは、大型事故が近づいたとき、非難を恐れて行動しなければならない時にできない」

そして、今、私たちに必要なことは、お金の狂ってしまった利己主義でなく、国民として最も基本的なことを守ることができる国民性回復と、お互いの傷を抱いてあげることができる配慮ではないでしょうか。

本で読んだハリネズミの愛の物語を思い出します。二匹のハリネズミが寒い冬を過ごすとき、こごえ死ぬまいとお互いにぴったりくっついて、お互いの体温を分かちあおうとしました。寒さが激しいほど、二匹のハリネズミは、お互いにさらに近くくっつきました。そのように、さらに近くくっつけば、ます

ますお互いのハリがお互いを痛く刺しました。痛さを感じたハリネズミは再び離れて、また寒さを感じれば再びくっついて…二匹のハリネズミは、温さを感じようと思う時は近付いて、痛さを感じる時はまた遠ざかったりしました。そして、こういう過程をたどりながら、ハリネズミは自分たちが最もよく耐えられる最適の距離を捜し出す知恵を持つようになりました。時には、人との関係や、またなにかの事件や苦しみに対する時も、このような、程度の調節と間隔の知恵が必要ではないでしょうか。そして、だれかが聞かせてくれたハリネズミの夫婦の愛の物語が、今日、私たちに必要な配慮の心を学ぶようにしてくれます。

ある家庭のカウンセラーは、結婚生活とはハリネズミの夫婦が「天気がとても寒い冬だから、互いに近付いて、くっこうとして、互いに刺されて血を流すこと」だと言いました。それなら、そのような愛は、結局「あなたなしでは生きていけない!」からはじまって「あなたのせいで生きていけない!」で終わるようになるのです。ところが、事実はそうではありません。ハリネズミには、約5千本と言われるハリがからだについているのですが、愛を分かちあうときは、お互いのためにこのハリをみな横にして、お互いを刺さないようによく合わせるということです。お互いが持っている5千本にもなるハリをよく調和させて、お互いの愛を確認して分ける配慮と労苦、今日、傷ついたすべての方に必ず必要なことではないかと思わされます。

どのようにこういう配慮と献身が可能なのでしょう。自分の隠れた利益、隠れた計算、隠れた動機があるならば、このような配慮と献身は絶対に不可能です。今日、私たちの社会は利己主義とお金の奴隷になってしまったような感じを否定できません。他の人が死のうが生きようが、自分だけ生きれば良いという醜さにかくされた国民性と、お互いに対する不信が、今日の怪物のような私たちの姿を作ったのではないのでしょうか。何でもいい加減にする国民性、他の人が見ていなければ、あってもないようにする法規、利益があるならば目が見えなくなってしまう個人主義、させられること以外にはすることを知らない怠慢の安易さと無能…いったい私たちは、どこで人と社会のためのまことの愛と献身を回復することができるのでしょうか。

聖書は人間が「まことの私」を発見する時だけ可能だと言っています。なぜなら、この地のすべての人間は、サタン(Satan)という暗やみの存在にだまされて神様を離れた以後、すべての人が罪人になったので、このような利己主義的で、悪い習性を捨てられないのです。

「それは、次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。ひとりもない。悟りのある人はいない。神を求める人はいない。すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。善を行なう人はいない。ひとりもない。」「彼らのどは、開いた墓であり、彼らはその舌で欺く。」「彼らのくちびるの下には、まむしの毒があり、」「彼らの口は、のろいと苦さで満ちている。」「彼らの足は血を流すのに速く、彼らの道には破壊と悲惨がある。また、彼らは平和の道を知らない。」「彼らの目の前には、神に対する恐れがない。」…すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、」(ローマ 3:10~18, 23)

それで、その罪からの報酬は死だと語っています。(ローマ 6:23)しかし、道があることを聖書はまた知らせています。

「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」(ローマ 7:24~8:2) その時にやっと、新しい人生が始まります。

「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」(ガラテヤ 2:20)

今、私たちに根本的に必要なことがイエス・キリストの十字架の愛です。



「彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」 イザヤ 53:3~5

聖書は十分にあなたに・・・

神様のみことばは装飾用ではありません。生きておられる神様の約束です。アメリカの33代大統領だったトルーマン（H.S.Truman）は、引退後、自分の記念図書館を訪問しました。すると、町の子どもたちが大統領を見ようと集まってきました。その中のひとりの子が大統領に尋ねました。「おじいさんは勉強がよくできたんでしょう。級長をしたのですか」トルーマンは答えました。「私は勉強が本当にできなかったんだよ。目が悪くてメガネをはずしたら、ほとんど視覚障害者だったんだよ。特別な才能もなく、こわがりだったよ」子どもたちが首をかじげました。「だったら、どのようにして、大統領になったのですか」トルーマンはやさしく答えました。「私は毎日のように聖書を読んだんだよ。そして、私は聖書のみことばを信じた。神様がなされば、できないことがないというみことばを信じたんだ。それで、私は何でも打ち切ったり、あきらめたりしなかった。私をバックアップしてくださる神様の力を信じたからだ」それとともに自分の背中を見せてくれました。背中には何も見えなかったのですが、神様の助けがあった背中でした。トルーマンは弱い人でしたが、神様が助けられるという信仰で進みました。神様がともにおられたので大統領になったという告白が、彼を偉大な信仰者にしました。事実、彼は20世紀アメリカの大統領の中で唯一大学教育を受けることができなかった人でした。しかし、幼い時から楽しんで読んだ聖書が彼を偉大な信仰者にしたのです。

伝道者パウロはテモテに聖書についてこのように教えました。「けれどもあなたは、学んで確信したところにとどまっていなさい。あなたは自分が、どの人たちからそれを学んだかを知っており、また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」（Ⅱテモテ3:14~17）

聖書は重要なことを3つ語っています。最初に神様は生きておられ、すべての人間のいのちと万物を統治しておられるという事実です。二つ目、この人間が神様を知らないように最後まで失敗させる存在があるということです。それがサタン（Satan）と悪霊の働きです。三つ目、このように滅びるしかない人間に、救いの道になられた方がイエス・キリストであることをあかししています。だれでもイエス・キリストを信じて受け入れる人は、神の子どもになって、その権威が現れるようになります。神様のみことばを正しく知れば、人間を滅ぼす根本問題（原罪）が発見できて、その根本問題を解決する解答（福音=イエス・キリスト）を発見するようになって、根本的な祝福である救いの祝福を受けるようになります。

そのとき、霊的問題、精神問題、家庭問題、健康問題、経済問題など人間のすべての問題は解決されるようになります。その解放の道を聖書は教えてくれているのです。

「その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。」

ヨハネ 17:3



神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

Golden Time

ゴールデンタイム

若い時は、あまるのが時間で、年をとると足りないのが時間だ。だれにでも一日 24 時間であるが、その時間をどのように送るのかによって、人生はそれぞれ違う。こういう平凡な時間の中で、ゴールデンタイムがあるのだが、最近起きた事件を通して、私たちはその時間の重要性を新しく発見した。私たちが最も多く使うゴールデンタイムは、ラジオとテレビで一週間の単位として、最も視聴率が高い放送時間帯を言う。

しかし、重要なゴールデンタイムは一般的に生存に必要な事故初期の重要な時間で、危機の瞬間に生命を助ける時間を言う。沈没したセウォル号の旅客船の船長と乗務員が、乗客をはやく脱出させなさいというチンド沿岸海上交通管制センターVTSの指示にもかかわらず、これを無視して 31 分送った。また、理解できないことに、乗務員が近くのチンド VTS との交信に先立って、距離が遠いチェジュ管制センターと沈没状況をやりとりしたので、人命救助で最も重要な時間である「ゴールデンタイム」12 分をのがしてしまい、悲劇の状況を作った。

医学用語でゴールデンタイムは、病院で生死を行き来する患者の命を争う時間を意味する。重症外傷患者の生死が決定される時間は、応急患者の場合は一時間、脳卒中発病患者の場合 3 時間で、事故発生後、被害を最小化して、治療後に効果が最も良い時間を意味する。また、火災事件発生時のゴールデンタイムは、火がついた後、最初の 5 分が重要だが、その時間に消火器を使って対処すれば、消防車が一台出動したのと変わらないと専門家たちは話す。ゴールデンタイムは、企業保安にも適用されていて、ハッキング攻撃が発生した後 1 時間以内に企業に実際の 84%の被害が起きる時間をいう。このように、短い時間が危機を防いだり、危機を脱出する重要な時間である。

それなら、他人に近づいた危機が、まさに私のことになることがあると考えれば、私たちの人生において、ゴールデンタイムは果たしていつなのか。人が 1 分後の事を 1 週間だけ分かったら、その人は世界を征服できるというのだが、人間がこれからの事をどのように予測して、あらかじめ知ることができるかということだ。それなら、多様なゴールデンタイムでは危機マニュアルをそれぞれ持って、それをこまめに練習して確認することによって人間の苦痛を解くべきだ。ゴールデンタイムをのがして、罪のない学生たちが犠牲になるセウォル号のような無知なことは、再びあってはならない。それなら私の人生のゴールデンタイムのためのマニュアルは何なのか。

人間は頭の中で宇宙を行き来する特別な存在だが、肉的には弱い植物や強い獣よりも、時には足りない存在だ。自然を支配するが、自然の攻撃の前に無力で、人生の無能さの前で挫折しやすい存在が人間だ。それで、神様は人生を生かすゴールデンタイムを用意しておかれた。人間の問題を自ら解決できないので、福音を準備された。人間は自由な生活を満喫しながら未来を恐れてはいないが、残念ながら、生と死がいつも付いて回る。生きているという存在の現実が、死という絶望の事実ともかみ合っていることを忘れてはいけない。したがって、考えることができる時間の中にいるとき、生活のマニュアルとして、いのちを生かすことに心を寄せなければならない。それなら人生にあってゴールデンタイムは、福音が伝えられる瞬間的な今だ。絶え間ない明日があると期待するだろうが、残念ながら、その日が私を待ってくれないこともある。経験したように、ゴールデンタイムを逃せば、回復は永遠に不可能だ。信仰を告白することによって、ゴールデンタイムを 100%占めるように願う。時間がない。

チョン・ヒョングク (福音コラムニスト)